

～ 学び合いの喜びを求めて ～
自主公開授業研究会

沖縄本島島尻地区（南部）南城市立百名小学校、児童183名、学年1クラスの中規模校、前年度より「学びの共同体」の理念による、学校改革と授業づくりに挑戦が始まる。私の訪問も前年度1回（H25.RシートNo.109）今回が2回目の訪問である。今回は、自主公開授業研究会のスタイルで保護者の授業参観もかねての全教室公開の授業研究会となった。学校にもさまざまな事情がある、本日も、1～6年、少人数指導の授業を参観させてもらったが、なんと学級担任の3名が定臨の教諭とのこと、（沖縄の教員事情の厳しさを痛感する）しかし、棚原校長の穏やかな音頭で授業づくりは淡々と「学び合い、支え合う」関係づくりにベクトルが向けられていた。右の写真は5校時の提案授業である。近隣の中学校からの訪問も受け入れての授業研究会である。「何かを学びたい」参観者の視線が授業者と子ども達に静かに注がれる。授業づくりは、まずはケーススタディ（事例から学ぶ）が鉄則である。授業研究は紙上の理論と教師の自己満足で終わってはいけなく、自からの授業を公開し子ども達の言葉や仕草、そして同僚の眼から学び、さらに第三者の批評を頂き、自己の授業力の向上のエキスとしていきたいと考える。



[1年 算数 K先生] 単元：20より大きい数のたし算



島尻地区や那覇地区で励行されている「授業開始前の「黙想」である。集中の切り替え、呼吸を整え息遣いを合わせる。…「静」。目に見える行為をみんなで共有することは大切である。仲間と歩調を合わせることの大切さは教師から子ども達へよく語られる。各教室で確実に実施されているということは

教師達のベクトルが協同と協調に向けられているということである。

下の3枚の写真、問題の解決（協同的活動）がペアに下ろされた。このくつつき具合どうですか？ペアで「ブツブツ、ボソボソ」聞き合いながら探究を深めていく姿です。教師の話の間かされて、プリントをわたされて、「一人でやっごらん」の授業では必ず取り残される子が出てきます。しかし、ペアにあずけると子ども達は互いにきき合い・支え合いながら解決に向かっていくのです。学校のお勉強で、我が子が隣のお友達と協力して頑張っている姿に一番安心するのは親たちであることを確認したい。



静然とした学びは整然とした環境でしか育まれない。どうですか？誰が見ても気持ちがいいもんですね。同時に教師の気遣いや、保護者の安心した眼差しを感じます。



[2年 算数 Y先生] 単元：1000より大きい数を調べよう



3800はどんな数でしょう？数直線図を使ってみんなで考える。思考を助けるモノは積極的に授業で使っていきたい。子ども達の眼が一点に集中する。「100が何個？」「10が何個？」「1目盛りの大きさは？」…授業者の言葉と視覚からの情報が一致する。「1、10、100、1000」10進歩の数の概念が呪文のように唱えられる。

ジャンプ課題

「100000の数は10を何個集めた数ですか？」ペアで考え説明することができる。

左の写真、仲間の説明に身を乗り出して聴き入る仲間がいる。「聴く」は発表者を支える最大の行為！



《ケアする》

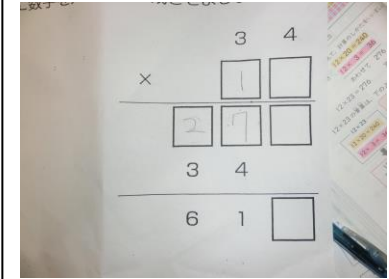
伏せた子どもに手が差し伸べられる。絶対必要です。百名小全教諭で共有し実践してほしい。



[3年 算数 H先生] 単元：かけ算の筆算(2) 2位数×2位数(繰り上がりあり)



《授業者より》児童の言葉をつなぐことを意識し、ジャンプ問題に時間が多く取れるように、余計な言葉を省いて授業したい。…学び合う授業づくりへの挑戦者の誰もがぶちあたる特別でないあたり前の壁である。課題の解説や解答への筋道の説明はできるだけ子ども達にあずけたいと考えるが、はじめで一生懸命な教師ほど。「きちんと、やさしく」から逃れきれない呪縛がある。H先生、そんな自分を責めないでください。焦らずゆっくりいきましょう。下の写真を見てください、子ども達、夢中になって協同解決に向かっていますよ。素敵です。「身を乗り出す」どう解釈しますか?…ナイス!



[4年 算数 I先生] 単元：少数のかけ算とわり算



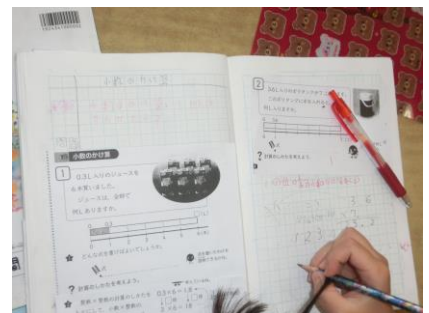
今年2カ年めの定臨の教師である。授業者が自己の改革に向かっていていることを実感させられた。右の写真、素晴らしい一言である。若い教師でありながら教室の環境づくりに熱意と誠意を感じる。明らかに去年とは違う。テンションも低く、言葉も柔らかい。授業者の心に小さな灯がついたのだ。きっかけは何だったのだろう。しばらく教室の一角から授業者のふるまい



を見ていた。「自分でちゃんとしたい」、「この子たちの学びの責任者だ」。授業者の思いと子ども達の言葉や仕草が一致する。関係がいいのである。

このクラスでぜひ特記しておきたいことがある。写真①、発言者に向けられる仲間の視線である。発表者も自分の言葉で実にゆったり安心して仲間に自分の考えを伝えている。発表後には自然と小さな拍手があった。わずかな時間ではあったが実に「静かに淡々と」であった。聴いてくれる仲間がいるから「語る」仲間が支えられることを理解したい。

下の写真、授業における「思考する時間の確保」への工夫です。ナイス!



[5年 算数 H先生] 単元：四角形と三角形の面積



写真①



写真②



写真③



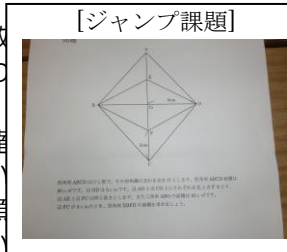
写真④



写真⑤



写真⑥



こちらも定臨の教師である。実にさわやかな印象がした。授業者が子ども達と授業を楽しんでいる。写真①②の笑顔

を忘れないでほしい。右が、本日のジャンプ課題である。レベル的に結構高い、しかし、教師も子供も一人もあきらめたり、投げ出す者がいない。「難しい、簡単でない」が分かる喜びの追求に向けられる。簡単でないことが学ぶ必然をつくり出す。

写真③、すべてのグループが互いに身を寄せ合い「知」を絞り出す。夢中になって「もがき」を楽しんでいる。写真④、今日は保護者の授業参観日でもある。保護者も一緒に考える「…むっ～難しい」授業参観では積極的に保護者も授業に参画させていきたい。それでこそ互いが育ち合う学校である。写真⑤⑥、授業終了後、給食準備の間も追及は続く。・・・ナイス！

[提案授業 5校時 6年 算数 A先生(少人数指導)] 単元：場合の数



写真①

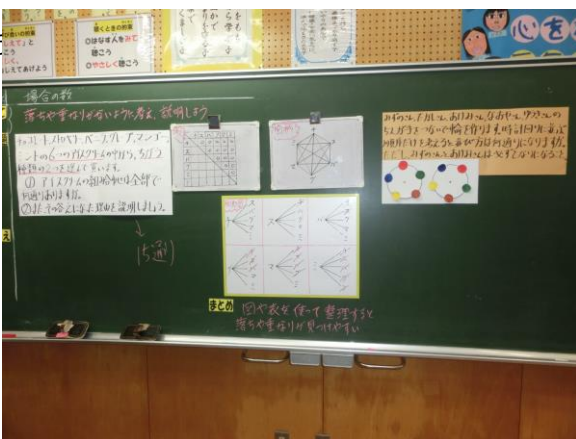


写真②



実に学習規律のいきとどいたクラスである。26名のうち男子が7名という面白さと難しさがある。授業者のまじめさや丁寧さは、黒板と対話の言葉、特に子供から教師に向かって発せられる言葉で感じることができる。優しい教師の人柄と丁寧な授業を素直に受け入れる関係がつけられている。本日の互いの学びの形態は「わたり」と「小グループ」の2通りがデザインされていた。写真①が「わたり」、親しい友達に分からないところを訊いたり、確認したりする。写真②が小グループによる互いでの学び合いである。

右の写真、依存ができない男の子に教師のケアが入る。教師は意図的に二人をつないだ…ナイス！教師が去った後も、女の子は男の子の「分からない」に寄り添っていた。



百名小学校の先生方、校長先生、教頭先生お世話になりました。安心しました。教師の授業づくりのベクトルが、しっかり「学びの共同体」の理念に向けられていて、共通理解と共通実践が存在していることに頭が下がります。子どもに差異があるように、私たち教師にもそれぞれの持ち味や差異があります。大切なことは私なりに同僚と同じ方向に向かうことです。「はやい、おそい」「上手い、下手」は問う必要は全くありません。

校長先生の『学び合いの喜びを求めて』拝読させていただきました。「発言することのうれしさ…聴いてもらえることのでうれしさ…安心して学習に参加できる授業づくり…」校長先生の思いをぜひ全教師で共有し具現化に向かってもらいたいものです。…今のままを淡々と来年へつなぐ。(子ども達が困らないために)

国頭学びの会ゆい